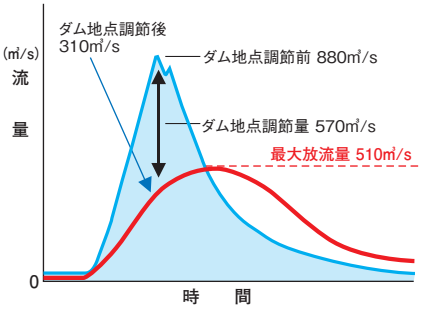
横川（よこかわ）ダムの管理

横川ダムは洪水調節、流水の正常な機能の維持、工業用水の供給、発電を目的とする多目的ダムで平成20年に完成しました。
工業用水は1日当たり7,000m³の供給を行い、小国町の地域発展を支えます。発電は横川発電所において、最大使用水量13.0m³/s最大出力6,300KWの発電を行っています。

■ダム諸元

型　式	重力式コンクリートダム
目　的	洪水調節、流水の正常な機能の維持、工業用水供給、発電
堤頂高(標高)	EL.267.5m
堤　高	72.5m
堤頂長	277m
堤頂幅	6.5m
堤体積	239,800m³
基盤地質	溶結凝灰岩
堤体法勾配	下流面　1:0.78

■洪水調節図



防災操作（洪水調節）の仕組み（自然調節方式）

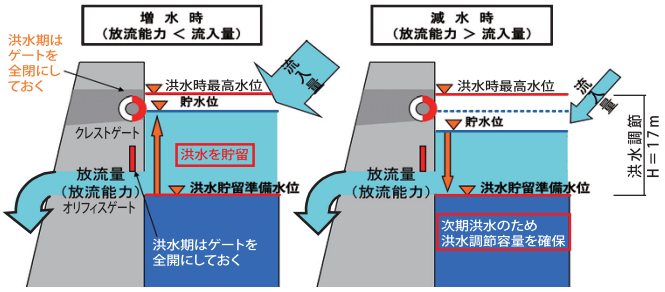
洪水調節は、ダム地点における計画洪水流量880m³/sのうち、ピーク流入時は570㎥/sを調節し、その後緩やかに計画最大放流量510m³/sを流下させることで、下流域の洪水防御を図ります。災害が発生するような大雨が予想されるときは、あらかじめダム水位を下げる「事前放流」をします。

横川ダムの防災操作は、洪水期および非洪水期ともゲート操作を伴わない自然調節方式です。

洪水期（6/16～9/30）

オリフィスゲート全開、クレストゲート全閉の状態で洪水貯留準備水位（洪水期制限水位）を確保します。
洪水が発生した場合は、洪水時最高水位（サーチャージ水位）まで貯留しつつ、オリフィスゲートから洪水を流します。

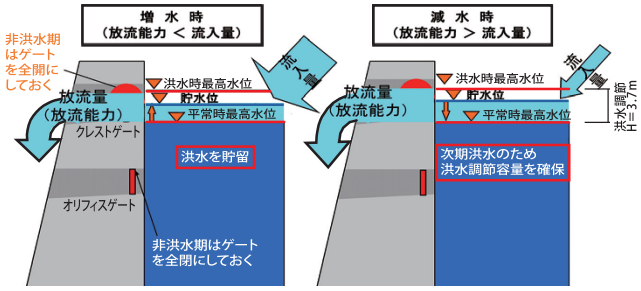
洪水期 洪水調節イメージ



非洪水期（10/1～6/15）

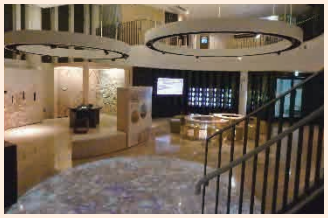
オリフィスゲート全閉、クレストゲート全開の状態で平常時最高水位（常時満水位）を確保します。
洪水が発生した場合は、洪水時最高水位（サーチャージ水位）まで貯留しつつ、クレストゲートから洪水を流します。

非洪水期 洪水調節イメージ



地域とダムの情報空間 きてくろ館

きてくろ館は平成20年4月18日に開館しました。
横川ダムの流域の自然や歴史、ダム情報をパソコンやパネルなどで紹介したり、総合学習など展示物を利用方法に合わせ変化させ、教材として利用できます。



ダム水源地域ビジョン

横川ダム水源地域ビジョンは平成20年3月に策定され、その理念を実現･推進するため、地元各団体と調整を図っています。白い森おぐに湖体験は平成23年から、わかさぎ釣り体験は平成28年から開催されています。

白い森おぐに湖体験

わかさぎ釣り体験

横川ダムHP
https://www.hrr.mlit.go.jp/uetsu/contents/dam/yokokawa/index.html